

「大人も子どもも よのなかを生き抜いていく」

校長 高田 晶子

人や街がすっかり冬支度になってきました。毎朝、校務員さんが校内外の落ち葉の掃き掃除をし、生徒を迎え入れてくれています。本当にありがたいことです。そのような中を、生徒や先生たちが背中を丸めながら歩く姿に、「いよいよ冬到来かな」と思われるようにもなりました。



今年も保護者や地域の皆様に支えていただきながら元郷中学校の年末を迎えようとしています。ありがとうございました。 ある日のきれいに整頓された靴

さて、この厳しいよのなかをどう生き抜くか、時々頭をよぎることがあります。花まる学習会代表の高濱正伸氏は、書籍：「よのなかルールブック」の中で、「これからのよのなかを生きるきみたちへ」と、メッセージを載せています。抜粋してみましたので、一緒に考えてみましょう。

これからのきみたちは、とても厳しい時代を生きていくことになる。

～ 厳しいよのなかを生き抜くための武器をおくりたい。～

- いいことを言うよりも、よい行動をとる。
- 「なぜだろう」と考える習慣を、身につける。
- 「失敗」を「失敗」のままにしない。「経験」にする。
- 見た目ではなく中身で勝負する人になる。
- 自分の時間と同じように他人の時間も大切にする。
- 自分の言葉で話せる人になる。
- 強い体をつくる。
- 「わかってもらえない」とは言わない。
- 「できません」「休みます」言いにくいことこそ、ちゃんと自分で伝える。
- 他人を批判しなくなったら、「自分はどうなんだ」と考えてみる。
- 「ありがとう」を口ぐせに。

これらは生き抜くための武器とはいいながらも、どれもが大人も子どもも人として身に付けておきたいことばかりだと思います。大切なのは、大人は日々の中で継続しているかどうか、子どもは年齢とともに一つずつ経験を積みながら身に付けていくかどうかであり、時間軸が違うだけで、人としてこの世の中を生き抜いていくためには身に付けておきたい力だと考えます。

私たちは、何かにつけて大人だから大丈夫と思いがちですが、一人の人として考えれば、毎日が精進あるのみだと思います。大人も子どもも、日々の困難を乗り越えて生きています。現に今も、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策に取り組んでいます。これからも大人も子どももみんなでよのなかを生き抜いていきたいものです。